

3.7 第27回調査・設計・施工技術報告会

「ブラタモリ制作の舞台裏」が特別講演になるまでの舞台裏

調査・設計・施工技術報告会部会 委員長 小高猛司
(名城大学理工学部 教授)



創立60周年の翌年度ではありましたが、平成30年6月29日に開催した第27回調査・設計・施工技術報告会（以下、報告会と略します）をすべり込みで記念行事として行わせていただきました。2月になってから思いつきのようにお願いしたにも拘わらず、当初は予定していなかったこの報告会を、記念行事の一つに加えていただくことを快諾していただきました実行委員会に厚く御礼申し上げます。

なぜ創立60周年記念事業にしてもらったのかは、今回の報告会での特別講演に関係があります。

今回の特別講演では、NHK制作局エンターテインメント番組部チーフプロデューサーの中村貴志氏に『「伝わる」番組の作り方～ブラタモリ制作の舞台裏～』をご講演いただきました。番組は冒頭5分の「つかみ」が大切であることや、ネットでは決して見つけることができない自分たちの足で稼いだ情報を提供する「伝える価値がある番組」を作っているという自負、そして、視聴率という極めてシビアな競争を常に強いられながらも、明るく前向きに番組を制作されているブラタモリ制作チームの雰囲気を伝えていただき、どの立場に身を置く聴講者にとっても、とても参考になる内容だったと思います。もちろん、ブラタモリ制作の舞台裏に関する、



中村氏による特別講演

それこそネットでは決して明かされていない様々な小ネタをご披露いただき、ブラタモリファンを自認する私にとっても、たまらないご講演でありました。この特別講演が実現するまでには、実は結構長い道のりとドラマがあり、しかも、そこには中部支部が結構関与しておりました。本稿では、その舞台裏をご披露して、60周年記念事業の報告とさせていただきます。

公益社団法人地盤工学会は、ブラタモリ制作チームに平成29年度地盤工学貢献賞を授与し、平成30年6月6日の本部通常総会にて村上章前会長より表彰状をお渡しいたしました。今回の中部支部によるご講演は、その受賞を記念してのものです。村上前会長（以降、当時の回想のため村上会長と書きます）は、平成28年6月に会長に就任された当初より、我が国の高等教育で「ないがしろ」にされつつある地学分野の話を、わかりやすく幅広い年代の国民に伝える番組「ブラタモリ」を高く評価され、特に次代を担う小中高校生に地学分野を魅力あふれる形で紹介することは地盤工学の将来に多大な貢献をしていると考えておられました。その意向を汲んで、平成28年度本部理事・会員支部部長の田中耕太郎氏（現：中部支部副支部長）が大御所タレントのタモリさんに地盤工学貢献賞を授与すべく、持ち前の起動力を発揮されて動かれました。タモリさん所属の芸能プロダクションに自ら足を運ばれ、マネージャーさんを介してタモリさんと交渉をされましたが、残念ながら失敗に終わりました。タモリさんには様々な団体からいろいろな申し出がたくさん来ており、たとえ由緒正しい学術団体である地盤工学会であっても、特定の団体から賞を受けるわけにはいかないという理由で、丁重に辞退されたのでした。本部理事会では、田中会員支部部長の健闘を称え、まあ、しかたがないな、とあきらめてはいたのですが、その後衝撃の事件が発生したのです。なんと、その年度に日本地質学会が、タモリさんではなく、NHKブラタモリ制作チームを特別表彰したのです。地盤工学会としては全くの想定外でした。二番煎じのようではありましたが、ブラタモリ愛あふれる村上会長の熱い想いもあり、次年度には必ずブラタモリ制作チームに地盤工学貢献賞を授与しようと考え、その実現に向けて即刻動き出しました。しかし、そのためには一つ大きな壁がありました。地盤工学貢献賞は創設以来、隔年で表彰することが表彰規程で定められていたのです。つまり、その規程のままでは村上会長の任期中には、ブラタモリを表彰できないことを意味します。ただ、丁度時期を同じくして表彰委員会では、地盤工学貢献賞の隔年表彰の妥当性

について議論がなされておりました。何か大きな貢献は、必ずしも2年に1回の表彰年にあるとは限らず、現規程の隔年表彰ではタイムリーな表彰の機会を逃してしまうのではないかという懸念に基づく議論です。それが偶然うまいタイミングでなされていたために、平成29年度の学会賞公募前に、地盤貢献賞を毎年募集するように表彰規程を改正することが理事会で承認され、その年度内にブラタモリを表彰する基盤が整ったのです。このあと、NHKに正攻法で連絡を入れ、表彰の主旨を理解してもらい、地盤工学貢献賞を受けていただく根回しをしました。交渉当時から、今回ご講演いただきました中村チーフプロデューサーが窓口になっていただき、受賞は大変光栄と好意的に受け止めていただいたおかげで、話がスムーズに進み、交渉役の私としても大変助かりました。

さて、11月の表彰委員会で授賞が決定してからまもなく、水面下で本報告会の特別講演の打診を行いました。地盤工学貢献賞は、受賞者が所属する支部総会にて表彰状をお渡しするのが慣例ですが、今回は現職会長の推薦で受賞されたこともあって、若干異例ではありますが本部総会で表彰状をお渡しすることを考えておりました。本部総会と同じ6月に本報告会を開催することを決めていたため、受賞記念講演会を本報告会で実施するにはまさにタイムリーと考え、10月から密かに講演会の企画を温めておりました。ただし、地盤工学貢献賞の記念講演を、名古屋で開催するというのもなんとなく理由付けが足りないように感じ、中部支部創立60周年記念という特別感を出して講演をお願いしました。結果、快くお引き受けいただき、名古屋での講演が実現いたしました。理事会で正式に地盤工学貢献賞を承認したのが平成30年1月であり、それまでこの話をオープンにできなかったために、冒頭で書きましたように、本報告会を創立60周年記念事業にさせていただくお願いをするタイミングが大幅に遅れた次第です。なお、今回のご講演に際して、中村チーフプロデューサーはNHKの業務としてお越しいただき、旅費も講演謝金もすべて辞退されましたので、60周年記念事業からの負担は、記念品のUSBのみであることを付記いたします。ちなみに、地盤工学会としては、中村チーフプロデューサーに本報告会の翌週の7月4日にも東京有明にて、一般市民を含むおよそ300名の方を対象にご講演をしていただきました。この講演会は、中村チーフプロデューサーと村上会長が初めてお会いした席上にて、私がうっかり名古屋での講演のことを口にしてしまったために、村上会長が是非東京でもやっていただきたいというその場の熱烈なラブコールに圧倒された中村チーフプロデューサーが快諾されて実現したものです。

特別講演会への舞台裏は以上の通りです。懇親会でもお話しましたが、今回のご講演をお聞きして、番組の魅力はタモリさんのキャラクターによるところがもちろん大ではありますが、1つの放送に50名もの専門家にインタビューするという膨大な取材力がこの番組を本物にしていることがよくわかり、本当に地盤工学に貢献しているのは制作チームの皆さんであることが理解できました。田中副支部長による前年のタモリさん突撃は残念な結果で終わりましたが、それがかえって真に表彰すべき方を表彰することができる結果に結びつき、地盤工学会としても本当に良かったと思う次第です。

創立60周年記念事業にさせていただいた直接のきっかけは特別講演でありましたが、当日は過去最高の200名以上の申込みをいただき、まさに記念事業にふさわしい盛況でありました。これは、特別講演の効果もあったのだろーと思いましたが、それ以上に中部支部会員各位が、記念事業として実施する本報告会を大事に思っていたいただき、ご参加いただいた賜であったと思います。13編にわたる調査・設計・施工にまつわる報告について大変熱が籠もった発表と質疑が繰り返され、参加した会員にも大変な刺激となりました。本報告会は、中部地質調査業協会様と建設コンサルタンツ協会中部支部様の永年にわたるご支援で成り立っておりますが、閉会にあたっては中部地質調査業協会の伊藤重和理事長から記念事業の締めくくりにあつたご挨拶をいただきました。懇親会にも、やはり過去最高ではないかと思う50名以上の方に参加いただき、最後まで残っていただいた中村チーフプロデューサーとともに大変楽しい夜を過ごすことができました。



伊藤氏による閉会ご挨拶

最後になりましたが、本報告会を支えていただいている委員、事務局、会員、関係機関の全ての皆様に心から御礼申し上げ、本稿を終わらせていただきます。70周年に向けてよろしくお願いいたします。